



2023年4月14日

各位

会社名 株式会社マネーフォワード
代表者名 代表取締役社長 CEO 辻 庸介
(コード番号：3994 東証プライム)
問合せ先 取締役執行役員 CFO 金坂直哉
(TEL.03-6453-9160)

第1四半期業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2023年1月16日に公表した2023年11月期第1四半期(2022年12月1日～2023年2月28日)の連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 第1四半期業績予想値との差異について

(1) 2023年11月期第1四半期業績予想との差異(2022年12月1日～2023年2月28日)

	売上高	SaaS ARR ※1	EBITDA ※2	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利 益	1株当たり 四半期純利 益
前回発表予想 (A)	百万円 6,278 ～6,563	百万円 17,550 ～18,066	百万円 △1,700 ～△1,200	百万円 △2,569 ～△2,069	百万円 △2,584 ～△2,084	百万円 △2,585 ～△2,085	円 銭 △48.07 ～△38.77
実績 (B)	6,791	18,275	△704	△1,625	△1,670	△1,705	△31.73
増減額 (B-A)	513 ～228	725 ～209	996 ～496	944 ～444	914 ～414	880 ～380	16.34 ～7.04
増減率 (%)	7.5 ～3.3	3.9 ～1.1	-	-	-	-	-
(参考) 前年同期実績 (2022年11月期 第1四半期)	4,755	12,904	△1,159	△1,638	△1,655	△1,668	△31.28

※1 SaaS ARR は各期末時点における Business ドメイン、Home ドメイン、X ドメイン、Finance ドメインの経常的に発生する月間収益を12倍して算出。ただし第1四半期、第2四半期においては、『STREAMED』の季節要因を調整するため、各期の第1四半期、第2四半期における『STREAMED』の課金収入の3分の1を経常的に発生する月間収益として算出。

※2 EBITDA=営業利益+償却費+営業費用に含まれる税金費用+株式報酬費用

(2) 差異の理由

売上高及びSaaS ARRにつきましては、全ドメインにおいて好調に推移したため、レンジの上限を上回りました。Business ドメインにおいては、『マネーフォワード クラウド』の法人向けの導入が好調に推移したことに加え、『マネーフォワードビジネスカード』の決済額が想定以上に増加し、ストック型及びフロー型の収益が期初の計画を上振れました。また、Home ドメインにおいては『マネーフォワード ME』の無料ユーザーにおける金融関連サービス連携上限数の変更によりプレミアム課金ユーザー数が期初計画より大幅に増加し、X ドメインにおいては複数の大型共創案件及び『BANK APP』の導入コンサルティングにかかる売上に伴い、フロー型の収益が計画を上振れました。加えて、SaaS Marketing ドメインにおいて『BOXIL SaaS』のリード獲得件数が好調に推移したことも売上高のレンジの上振れに貢献しました。

また、EBITDA、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益、1株当たり四半期純利益につきましては、売上高の上振れによる売上総利益の増加に加え、採用の進捗が期初の想定を下回ったことや、費用対効果を踏まえたマーケティング投資の抑制、第1四半期に計上予定であった本社オフィスの増床に伴う費用の一部(0.8億円)が第2四半期に計上される見込みとなったこと等により、人件費や広告宣伝費を中心に費用についても計画を下回り、期初のレンジの上限を大きく上振れました。営業損失が前回発表予想の下限(△2,569百万円)の0.63倍となり、軽微基準(予想値と決算値との差異が0.7倍未満)に該当しないことなどから、開示を行っております。

以上